

指導と評価の計画【公民科：公共】

単元名 主として政治に関わる事項	内容のまとめり 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 主として政治に関わる事項
----------------------------	--

本指導計画では、大項目Bを単元として、中項目を以下のように小単元として設定している。

- 大項目B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち…**単元2**
- 中項目(1) 主として法に関わる事項・・・・・・・・小単元1
- 中項目(2) 主として政治に関わる事項・・・・・・・・小単元2（本単元）
- 中項目(3) 主として経済に関わる事項・・・・・・・・小単元3

1 本単元の目標

中項目(2) 主として政治に関わる事項

自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

- 政治参加と公正な世論の形成、地方自治、国家主権、領土（領海、領空を含む。）、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。
- 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。
- 幸福、正義、公正などに着目して、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。
- よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、自らが公共的な空間に生き国民主権を担う公民になるという観点から、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

2 本単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 政治参加と公正な世論の形成、地方自治、国家主権、領土（領海、領空を含む。）、わが国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解している。知1 - 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。技1	幸福、正義、公正などに着目して、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。思1	よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、自らが公共的な空間に生き国民主権を担う公民になるという観点から、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。態度1

3 本単元の指導と評価の計画（9時間）（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

次	時	学習活動	評価の観点			評価規準等
			知	思	態	
第①次	第1時	【単元を貫く問い】 課題 私たちの意思をよりよく反映するための政治のあり方とはどのようなものなのだろうか。				
		【ねらい】 現代の日本における政治機構について多面的・多角的に考察する。 第①次の問い 民主政治を実現するために、日本にはどのような政治機構があるのだろうか。				
		本時の問い 国会は「国権の最高機関」としてどのような役割と果たしているのだろうか。				
		・国会の仕組みを理解した上で、問いについてグループで考える。	●	●	●日本国憲法下では、国民主権の理念を反映するために国権の最高機関と位置付けられていることや、二院制の仕組みと目的について理解している。{知1} ●問いに対する仮説を立て、学習の見通しをもっている。{態度1}	
	第2時	本時の問い 内閣はなぜ国会と連帯して責任を負うのだろうか。				
・内閣の仕組みや議院内閣制について理解した上で、問いについてグループで考える。			●	●内閣が主権者の意思を反映して行政を司るために議院内閣制が採用されていることを理解した上で、よりよい社会の形成のためには主権者一人ひとりが社会に参画することが重要であることを踏まえ、課題の解決に向けて考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。{思1}		
第3時	本時の問い 公正な裁判を実現するために、どのような制度があるのだろうか。					
	・日本の司法制度を理解した上で、問いについてグループで考える。	●		●日本の司法制度について、刑事裁判においては被告人の人権を最大限保障するために制度が設計されていることなどを理解する。{知1}		
第4時	本時の問い 裁判員裁判はどのような目的で始まったのだろうか。また、制度の課題は何だろうか。					
	・日本の司法制度の課題や裁判員制度の概要を理解した上で、問いについてグループで考える。		●	●日本の司法制度の課題を理解した上で、国民の意思が裁判に反映されることの重要性や公正な裁判との兼ね合いについて多面的・多角先に考察し、自分の言葉で表現している。{思1} ●自らが裁判員制度に関与することを踏まえ、学習の見通しを立てて取り組む。{態度1}		
第②次	第1時(本時)	【ねらい】 現代日本の民主政治における諸課題について、その内容を理解するとともに、課題を解決するための方法について多面的・多角的に考察する。 第②次の問い 現代の日本における政治制度にはどのような課題があるのだろうか。				
		本時の問い 「一票の格差」とはどのような課題で、これを改善するためにはどうしたらよいだろうか。				
		・日本における選挙の原則や現行の選挙制度を理解した上で、問いについてグループで考える。	●	●	●日本における選挙の原則や現行の選挙制度について理解している。{知1} ●「一票の格差」を改善するための方法について、それぞれのメリットやデメリットを踏まえたうえで考察し、自分の言葉で表現している。{思1}	
	第2時	本時の問い 投票率が低いことはなぜ問題で、どうしたら改善するのだろうか。				
・諸外国と比較したときの日本における投票率の低さやその特徴を理解した上で、問いについてグループで考える。		●	●	●日本の選挙は諸外国と比較して投票率が低いことや、特に若年層の投票率が低いことを資料から読み取っている。{技1} ●投票率が低いことで生じる問題やそれを改善するための方法について、他国の事例などを踏まえて考察し、自分の言葉で表現している。{思1}		

	第3時	本時の問い 政党政治とはどのような仕組みで、どのような課題があるのだろうか。 ・世界各国で主流となっている政党政治の仕組みと、日本の政党政治における課題について理解する。				●政党政治の仕組みとそのメリットとデメリット、日本における政党政治の現状や課題について理解している。{知1}
	第4時	本時の問い 地方自治は、私たちの生活とどのように関わっているのだろうか。 ・地方公共団体の原則と仕組みを理解した上で、現代日本の地方自治の課題と自らの生活との関わりについて考える。				●地方公共団体の仕組みや国政との相違点を踏まえ、よりよい社会の形成のためには 主権者一人ひとりが社会に参画し、合意形成を図ることなどが重要であることを理解している。{知1} ●地方自治についての理解を踏まえ、自らが主権者として生きていくことを踏まえ、地方自治のあり方と自らの生活との関わりについて多面的・多角的に考察し、自分の言葉で表現している。{思1}
	第5時	本時の問い 私たちの意思をよりよく反映するための政治を実現するための課題は何だろうか。 また、その課題はどうしたら解決するだろうか。				○主権者の意思をより良く反映する政治の実現に向けては、様々な課題があることを理解している。{知1} ○主権者の意思をより良く反映する政治の実現に向けた諸課題の特徴や傾向性、解決に向けた議論の内容などを資料から適切に読み取り、解決の方向性に結びつけている。{技1} ○主権者の意思をより良く反映する政治を実現するための課題の解決に向けて、幸福、正義、公正などに着目して、自立した主体として具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。{思1} ○よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、自らが公共的な空間に生き国民主権を担う公民になるという観点から、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。{態度1}

4 「指導と評価の一体化」を踏まえた学習評価の改善について

(1) 本単元「主として政治に関わる事項」で実施した評価について

本単元「主として政治に関わる事項」では、第2次で評定に用いる評価を行った。

「知識・技能」の評価規準となる{知1}「主権者の意思をより良く反映する政治の実現に向けては、様々な課題があることを理解している」については、単元終了後のペーパーテストによって評価することとした。また、{技1}「主権者の意思をより良く反映する政治の実現に向けた諸課題の特徴や傾向性、解決に向けた議論の内容などを資料から適切に読み取り、解決の方向性に結びつけている。」については、提出された成果物の内容が妥当か(明らかな事実の誤認や資料の誤った解釈がないか)によって評価することとした。

「思考・判断・表現」の評価規準となる{思1}「主権者の意思をより良く反映する政治を実現するための課題の解決に向けて、幸福、正義、公正などに着目して、自立した主体として具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。」については、生徒に評価基準を明示したうえで、提出された課題によって評価することとした。この基準については次項で詳述する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準である{態度1}「よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、自らが公共的な空間に生き国民主権を担う公民になるという観点から、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている」については、机間指導、提出された成果物の内容から評価することとした。①の「知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組」は机間指導によって、②の「①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面」は提出された課題の記述内容によって評価することとした。

(2) 「思考・判断・表現」の評価について

本単元の中項目B「主として政治に関わる事項」では、第2次の授業を行ったのち、生徒に「私たちの意思をよりよく反映するための政治を実現するための課題は何だろうか。また、その課題はどうしたら解決するだろうか。」という課題を提示し、提出を求めた。本単元の目標には「具体的な主題を設定し」とあることから、生徒にはそれぞれ授業で取り上げた課題(一票の格差、投票率の低さ、政党政治、地方自治、政治参加とメディアリテラシー)のなかから1つを取り上げ記述させることとした。なお、課題に取り組ませるにあたって、生徒には事前に以下の評価基準を提示した。

- A 「主権者の意思がよりよく反映される政治を実現するための課題」について具体的な課題をひとつ取り上げた上で、その解決に向けた方法をメリットとデメリットを検討した上で提示したり、取り組みの具体例を取り上げたりしながら考察し、表現している。
- B 「主権者の意思がよりよく反映される政治を実現するための課題」について具体的な課題をひとつ取り上げた上で、その解決に向けた方法を提示して考察し、表現している。
- C Bの基準に満たない内容のもの

次に示す例1～例3は本課題の抜粋である。

例1 A評価「十分満足できる」状況と考えられる記述の例①

※波線部が具体的な評価箇所

課題は、選挙区ごとの主権者数によって一票の価値が異なり、主権者数が多いところと少ないところで主権者の意思の反映のされやすさが変わってしまうことだと思う。いわゆる「一票の格差」を解決するには、区割り変更が有効だと思う。区割り変更は、選挙区の境界を変更することだが、これを行うことにおけるメリットは、主権者数が少なすぎる選挙区と、多すぎる選挙区間での差が小さくなり、平等な状態で選挙を行うことができることだ。ただ、区割り変更をすることによって、選挙区が広がったところは政治活動が大変になるという点や、応援していた人が違う選挙区になってしまい、応援ができなくなってしまうといったデメリットもある。しかし、これを踏まえた上で、前者の場合は有権者が多様な意見をより広い範囲に求めたり、後者の場合は、新たな意見に出会え、それも含めて応援する・しないを決めることができたりと、それも有権者の意思につながるため、区割り変更が課題解決に導いてくれると思う。

例2 A評価「十分満足できる」状況と考えられる記述の例②

※波線部が具体的な評価箇所

主権者の意思がよりよく反映される政治を実現するためには、選挙の投票率を上げるべきだと思う。今は特に若い世代の投票率が低く、シルバー民主主義と呼ばれるようにもなっている。投票率が低い理由としては、候補者のことを知らなかったり、仕事などで時間がなかったり、政治について興味がなかったりすることが挙げられる。解決策としては、若者が日常で使っているSNSを使って宣伝することがある。瑞穂市でも、市議会議員に立候補した方がインスタグラムを活用し、若者からの票を多く獲得して当選した、ということがあったそうだ。しかし、高齢者の中には、スマホを使わない人もいるため、SNSだけでなく、今までの活動も並行して行っていくことで、幅広い世代が選挙について良く知ることができると思う。時代に合わせて、様々な人が関心をもてる活動をするのが大切だと思う。

例3 B評価の例「おおむね満足できる」状況と考えられる記述の例

※波線部が具体的な評価箇所

主権者の意見をより取り入れるためには、投票率の低さが課題だと思う。その原因は、投票に行くのが面倒くさいと思っていることや、政治に興味がなさからだと思う。解決するためには、もっと投票できる場所を増やすといいと思う。しかし、これでは不公平な投票になったり、集計の手間が増えてしまったりする。そこで、スマホを使った投票ができるようになったらいいと考える。そうすれば人手もかからないし、良いと考える。また、特に若者の投票率については、街頭での演説だけでなくSNSを活用した演説をするといいと思う。若い人たちは毎日のようにSNSをチェックするので、とても有効だと思う。現代の生活に合わせた選挙の仕方が大切だと思う。

例1の生徒は、「私たちの意思をよりよく反映させる政治の実現に向けた課題」として「一票の格差」を設定し、その問題点を踏まえて解決の方向性について論じている。解決策として出された「選挙区割りの変更」について、そのメリットとデメリット双方を踏まえて考察し、表現できていることから「十分満足できる」と評価した。こうした記述は他にも数名の生徒に見られ、事前に示された評価基準を踏まえ、これまでの既習事項を理解したうえで課題について考察し、表現することができていると考えられる。

例2の生徒は、投票率の低さ、特に若い世代の投票率の低さを課題として設定し、解決の方向性について論じている。この生徒は、課題の考察にあたって身のまわりでみられた具体例を挙げながら考察し、表現していることから、「自らが公共的な空間に生き国民主権を担う公民になる」という視点も涵養されていると言えるだろう。加えて、SNSによる宣伝では高齢者には伝わりにくいというデメリットを踏まえ、今までの活動の併存を提案している。以上の点から「十分満足できる」と評価した。

例3の生徒も、投票率の低さ、特に若い世代の投票率の低さを課題としている。課題の解決策としてはSNSの利用が挙げられているが、これによるデメリット(例2の生徒が指摘したようなもの)についての言及がなかったため、「おおむね満足できる」と評価した。「おおむね満足できる」とした記述には、このように課題の解決策のメリットのみを説明するものが複数見られた。

また、教科書等から「私たちの意思をよりよく反映させる政治の実現に向けた課題」に関する記述をそのまま抜き出して提出する生徒などもいた。その中で明らかに課題の理解に誤りがあるもの、記述された文章の構成が矛盾しているものなどを「努力を要する」と評価した。このような記述については、生徒の知識理解の誤りや文章構成の矛盾点について紙上で指摘し、各資料の着目すべき点を明示しながら生徒へ返却することで生徒が自身で誤りを修正できるようにした。

(3) 今後の課題

これまでの授業実践の振り返りから、以下の3点が課題として挙げられる。

1) 評価基準の検討と明確化

生徒の知識や技能の定着状況、思考の経過、取り組みの様子などをどのように評価するのか、が今後の課題の1つである。

本単元では、生徒自身がまもなく選挙権をもち、主権者として生きていくことを踏まえ、前項のような評価基準を設け、生徒に提示した。生徒が今回の課題を考える上では、自らの生活を振り返り、政治との接点を見つけたり、身のまわりで起きている事象やそれに対する議論に目を向けた上で、「自分はどうか考えるか」という価値判断をしたりする必要がある。一方で、評価基準においては、生徒が下した価値判断や意思決定の基準や根拠を評価することはせず、あくまで課題の理解度や論理的な考察(記述)に焦点を当てた。しかし、公民科の目的である「公民としての資質・能力の育成」やそのために必要な「社会的な見方・考え方」という点を踏まえると、生徒の価値判断や意思決定の基準や根拠、経験なども時に評価をする必要があると感じた。もちろん、1年を通じた指導の見通しを立てるなかで、どの場面で評価するか、あるいは生徒の内面にどこまで踏み込んで評価すべきなのか、といった点は慎重に検討する必要があるだろう。そうした観点からの評価基準の検討が、今後の課題の1つである。

また、1年間の学習を見通したうえで、3観点それぞれの評価基準を明確化することも今後の課題である。評価基準を明確にすることは、授業者にとっては、評価基準が一貫することによる作業の効率化や評価の公平性が担保されることとなり、また生徒にとっては、授業のなかで「何をすればいいのか」が明確になることとなり、双方にとって利点があると考えられる。

2) 評価の生徒へのフィードバック

生徒が評価を踏まえて学習を続けていくためには、生徒が自身の現状を省察して、それに対する適切な取組を決定できることが重要である。とくに「学習改善につなげる評価」については、(1)でも述べたように生徒の適切な取組を支援すべく評価の内容や今後の見通しを生徒にその都度明示する必要がある。

そのため、授業内で生徒から出された思考や提出された課題に対するフィードバックを繰り返して、生徒自身の「学びの現在地」を示し、その後の取組を支援する必要がある。具体的には、机間指導時の対話、提出された課題へのコメント(文字)や返却時の口頭での評価、授業内での全生徒に向けたフィードバックなどの場面を活用することが挙げられる。今回提出された課題については、それぞれ評価とコメントを書き加えて返却した。しかし、コメントを生徒が受け取って「これから何を、どうやって学習するのか」を明らかにでき、今後の学びに生かすことができているのかどうかは十分な検証

ができていない。今後は、授業展開のなかで評価のフィードバックを繰り返し、生徒がどのように学びを調整し、粘り強く取り組んでいくかを意識して見ていく必要があると考える。同時に生徒自身が「これまで何を学んだのか」「これから何を、どうやって学習するのか」を考えながら学んでいくことが必要になると考える。

5 おわりに

ここまで、今年度実践した公共の単元をもとに、「指導と評価の一体化」を踏まえた学習評価の改善について評価基準や具体例を例に考察するとともに、(3)に示した2点を今後の課題として挙げた。これらの課題は相互に関連している内容であることから、今後は2点を踏まえた授業改善が、指導と評価の一体化に向けて重要になると考える。また同時に、授業者の授業計画や実践の能力(発問の内容や時機の検討、活用する資料の精選など)も向上させていく必要がある。

公民科 学習指導案（公共）					
学校名		授業者		実施学年・組	2年次2組
使用教科書	『新版 公共』（数研出版）	補助教材	『テーマ別資料 公共』（とうほう） 『私たちが拓く日本の未来』（総務省）		
単元名	B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち （2）主として政治に関わる事項				
単元を貫く問い	私たちの意思をよりよく反映するための政治のあり方とはどのようなものなのだろうか。				
本時の内容	日本の選挙制度とその課題（小単元 1/4 時間目）				
本時の目標	・日本における国政選挙の現状を理解したうえで、日本の選挙制度が抱えている課題とその改善方法について「一票の格差」を例に考察し、表現する。				
本時の課題（問い）	「一票の格差」とはどのような課題で、これを改善するためにはどうしたらよいだろうか。				
評価の観点 （本時の観点に○）	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	●	●			
評価の規準	知識・技能（学習改善につなげる評価）		思考・判断・表現（学習改善につなげる評価）		
	・日本における選挙の原則や現行の選挙制度について理解している。		・日本の選挙制度の課題や「一票の格差」を改善するための方法について、それぞれの <u>考察し、メリットやデメリット</u> を踏まえたうえで <u>考察し</u> 、自分の言葉で表現している。		
評価の方法	・机間指導による観察、提出されたワークシートの記述内容によって評価する。				

授業の展開

※評価欄には評定に用いる評価を○ 学習改善に用いる評価を●で表記

過程	分	指導内容	主な発問や指示	生徒の活動	指導上の留意点
導入	5	1. 日本の選挙が主権者の意思を反映した結果になっているのかを考える。	SQ1「日本の選挙は、主権者の意思を十分に反映しているといえるだろうか？理由も合わせて考えてみよう。」	・中学校までの既習事項や生徒の知識をもとに、設問についてワークシートに自分の言葉でまとめる。 ・個人の意見を他の生徒と共有する。	・あらかじめ生徒を 5-6 人のグループにしておく。 ・「主権者の意思をよりよく反映するための政治のあり方」について、今回は選挙制度に着目して考えることを伝える。
展開 ①	10	1. 日本の選挙制度について理解する。 2. それぞれの選挙制度のメリット・デメリットを理解する。	SQ2「日本における選挙の原則について確認しよう。」 SQ3「資料を参考にしながら、選挙制度の特徴について確認しよう。」 ・日本では、どのような原則に基づいてどのような選挙制度が採用されているのかを確認する。	・教科書 p.106 を参照しながら、選挙の原則についてワークシートにまとめる。 ・教科書 p.106 や資料集 p.127 を参照しながら、衆議院・参議院の選挙方法についてワークシートにまとめる。	・日本における選挙の現状や制度を確認しながら既習事項についても確認する。 ●日本における選挙の原則や現行の選挙制度について理解している…(知)

展開 ②	25	1.「一票の格差」について理解し、課題を改善するための方法について考える。	MQ「一票の格差」とはどのような課題で、これを改善するためにはどうしたらよいだろうか。		
			SQ4「一票の格差があることはなぜ問題なのだろうか。」	・「一票の格差」は平等選挙の原則を保障できていないことから、改善しなければならぬことを理解する。 ・教科書 p.106－107、資料集 p.126-127 や補足資料などを使用してワークシートの課題に取り組む。 ・個人で課題について考えた後、グループでの話し合いに入る。 ・グループ活動後にクラス全体で意見の交流を行い、その内容をワークシートに記入する。	・「一票の格差」とはどのような課題であるのかを明らかにしたうえで、選挙制度などに着目させて改善方法を検討させる。 ・「一票の格差」を改善するための方法については、それぞれのメリット・デメリットについても考えさせる。 ・机間巡視を行う。 ・資料などから必要な情報を読み取ることができるように支援する。
まとめ	10	1. 日本の選挙における課題と、その改善に向けた方策について考察し、文章でまとめる。	・MQならびに本時の学習を振り返り、日本における「一票の格差」とその改善に向けた方策について考察させ、文章にまとめさせる。	・学習した事項をワークシートにまとめ、グループで意見を交流する。	●「一票の格差」を改善するための方法について、それぞれのメリットやデメリットを踏まえたうえで考察し、自分の言葉で表現している…(思)

日本の選挙と選挙制度(教 p.106)

Q. 日本の選挙は、主権者の意思を十分に反映しているだろうか。

反映している ・ 反映していない
理由は…

1. 選挙の原則と選挙制度

〔作業〕日本における選挙の原則を確認しよう

()…()歳以上の国民であれば、誰もが選挙権をもてる
()…各有権者が同じ票数をもつ(＝一票の価値はすべて平等)
()…投票者が誰に投票したのかを他人に知られない
()…投票者が候補者を直接選ぶ

- 選挙の方法としては、()と()がある
Cf) 衆…() 参…()制と()制

〔作業〕それぞれのメリット・デメリットを整理しよう

	メリット	デメリット
小選挙区制 …1選挙区から1人選出	()となりやすく、政権が安定する。	()が当選しづらい。 ()が多くなる。
中・大選挙区制 …1選挙区から2人以上選出	()が少なくなる。 - 買収など()の可能性が低い。	- 小政党が乱立し、政権が不安定になることがある。 ()が多くなる。
比例代表制 …政党の得票に比例して議席を配分	()が少なくなる。 ()でも当選者を出す可能性が高くなる。	小政党が乱立し、政権が不安定になることがある。

2. 日本の選挙における課題

- 日本の選挙における課題…()とか、()とか…
➤ 「 」とは

--

- 有権者の多い選挙区と少ない選挙区との差が()倍を超えると、裁判所に()と判断される目安となる

〔グループ作業〕「一票の格差」とその改善方法について考えてみよう。

1)「一票の格差」はなぜ問題なのだろうか。
2)「一票の格差」を改善するための方法を、それぞれのメリットとデメリットに着目しながら調べてまとめよう。
他グループの意見

Q.「一票の格差」を改善するためには、どのような取り組みが有効だろうか。

疑問に思ったことをメモしておこう。

--